

鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 令和2年12月25日(金) 午前10時～12時
- 会 場 グランド エル・サン ローズルーム
- 委員発言の概要

【新型コロナウイルス感染症対策関連】

- ・創業支援の場合は、思い切った施策が必要だ。起業が非常にしにくい状況にあるので、起業をすれば無条件で100万円補助するといったようにわかりやすいと非常にインパクトがある。

【実施計画策定関連】

- ・産業強化イノベーションプロジェクトの企業誘致に関して、ただ箱を作ればいいということではなく、人材不足が課題となっている。誘致企業を選ぶときは、よりいい条件の企業を選ぶより、そこに産年齢人口が付いてくるかということの問題だと思っているので、その企業で若い人たちが働きたいかということを優先して選んだほうが、結果としてその企業が来ることがIターンUターンにも副次的につながっていく。
- ・政策、まちづくりへの若者の参画について、若者も参加できるような具体的な施策が欲しい。
- ・移住に関して、テレワーク、リモート、副業、ワーケーション、色んなフリーランスの人が、半農半Xも含めて、新しい移住等を推進するような施策が見えにくい。
- ・コミュニティの維持がとても難しい現状になっており、コミュニティのコーディネーターやマネージャーのような人材を具体的に育成していく必要がある。
- ・SDGsを推進するにあたって、目に見える形で展開するには、食というテーマがあるのではないか。地産地消の推進はもとより、市内、市外の一部で自給率を高めるような具体的なモデルを作れないか。
- ・コロナ禍の中で目標値を変更しないといけないだろう。その目標値の変更をきちんと明示して、今後の3年間の施策を展開してほしい。
- ・コロナで事業を中止せざるを得ないという考え方でなくて、こういう状況の中でどうしたらできるかをぜひ考えてほしい。特に酒井家入部400年や松ヶ岡150年もあるので、そうした地域の歴史に逃がせないタイミングとの関係でそういう姿勢を取ってほしい。
- ・市は何に力を入れているのかわかりにくいという市民の声がある。市民に広くいきわたるという意味では、ホームページもあるが、紙媒体の広報の活用をもっと積極的に考えていく必要がある。鶴岡の若い人たちが、広報もそこだけは見るといようなコンテンツを入れていく発想も必要でないか。

- ・各分野について、進捗管理と成果検証、課題分析をどうしていくのか。3年間の計画の中で、実績をわかりやすく公表したほうがいい。市民が自分たちとして何ができるか意識付けにもなる。
- ・これから取り組み分野で大切なのは、所得の向上に結び付けるための、いわゆる雇用を生むための施策、既存の一次産業の所得をどう上げていくのかである。
- ・中高一貫校が2024年から開校の予定である。県の施策ではあるが、小中学校と非常にかかわりのあることなので、しっかりとしたビジョンを示し、希望の持てる鶴岡の教育というものをしっかり出すということが大事だ。
- ・より地域の住民に寄り添って、もっとわかりやすく、こんなこともできる、こんなことをやりたいというようなことを発展的に推進する時期だ。地域防災、地域コミュニティは疲弊しているので、これに対して行政として何ができるのか、今一度検証してほしい。
- ・子供たちが就職したい会社の誘致がとても重要だ。
- ・地元企業に求人を出しても応募が来ないという状況があり、鶴岡工業高校にPRしたら地元就職率が上がったと聞く。他の高校でも企業と一体となってお知らせすることが重要だ。子供達には色んな情報が入ってくるが、実は親がどういう仕事をしているかわかっていない。意識付けするために、鶴岡にはこんな素晴らしい企業があるということを知らせたり、先輩たちのメッセージをSNSで発信するなど、地元定着に結び付くような施策をしてほしい。
- ・東北公益文科大学大学院について、大学院の改革について、地域と一緒に活動しているのが見受けられない。市と大学とのコミュニケーション、協働して地域を作り出せるようなシステム、市と大学院との地域発展のための構想をつくるということを討議してほしい。
- ・人材確保について、一番課題だと思っているのは、行政側ではなくて、企業側である。その仕事を通じて自分が成長できるか、自己実現とか社会貢献とか、そういったマインドを持った若い世代が非常に増えており、仕事に対する価値認識がすごく変わってきている。重要なポイントは、企業が自分の会社をもう一度見直して、自分の会社を若者と一緒になって成長させていくというビジョンを語るとか、若い世代と一緒に取組んでいくプロジェクトをつくるとか、若い世代に企業が寄り添っていく必要がある。最も重要なのは、企業の採用に対する考え方の向上だ。そこを行政は啓蒙してもらいながら、変わった企業を引き上げる仕組みを作っていくことが必要。
- ・ネット環境がない高齢者にとって、紙媒体は重要だと思っている。デジタル媒体は、テレビを見るような感覚で操作できれば、高齢者も使うことができると思う。若い世代も大事だが、全然そういうもの触れることができない人に対しての施策も忘れないでやってほしい。
- ・せっかくいい大学もあるし、農業も盛んにおこなわれている地域なので、県外から来ている学生を支援する制度があってもいいのではないかな。定着するのは、県外の優秀な人材でもいい。

- 魚の美味しいまち鶴岡キャンペーンについて、実施していた店舗から聞いたが、キャンペーンと聞くと、市民はおいしいものを安く食べられるというイメージだったが、そうではなかった。キャンペーンという表現はどうだったのか、行政の考えと市民の思いが噛み合っていないと感じた。
- 駅前から商店街がすごく長く続いている珍しい市と思うが、私が小学生の頃よりも元気がなくなってきたと感じる。天神祭りなど企業に町全体で参加するような働きかけなどをしていくとより賑わいが出てくると思う。
- 図書館が遠くてわかりにくい場所にあるとか、中央公民館の駐車場が狭いなど、もともと課題がある場所も多いと思うので、整備を考えているのであれば、そういうところも併せてまちづくりをしていけば、住みやすい鶴岡になると思う。
- 参考資料の 47 ページにある加茂水族館や博物館を中核とした交流人口の拡大とあるが、掲載されているのは、加茂水族館の事業のみとなっている。博物館の事業が載っていないのは、取り残されている感じを受ける。
- 今年の 5 月 1 日に文化観光推進法が施行されたが、酒田では今年、本間美術館が認定を受けている。拠点施設の本間美術館と、推進事業者の酒田市、酒田観光物産協会、Hidden Japan と共同申請をして認定を受けたもの。致道博物館も申請したいと考えており、鶴岡市、DEGAM と協議、相談した上で推進するか、もしくは酒井家入部 400 年記念事業の中で取り組むことができるのかどうか、相談したい。
- 今の計画の枠組みはビフォーコロナの枠組みで作られているので、コロナ禍が数年続く場合、かなり大きな修正を迫られるのではないかと。特に交流人口に絡めて作ってあるプランは先に進めるのは難しくなるので、どのように修正していくかを考えてもらいたい。
- 地域包括ケアを進めるにあたって、荘内病院でやっている緩和ケアを研究してもらいたい。切り口は違うが、やっていることは包括ケアであり、具体的に目に見えるような形で市民に見せることができるのが緩和ケアだと思うので、研究をよろしくお願ひしたい。

以上